

【施策番号 II-01-07】

分野	戦略	県民一人ひとりが人権を尊重され、健やかに生き甲斐を持って力を発揮できる社会
長寿安心くまもと	重点的に取り組む施策	健康増進・長寿づくりの推進

1 施策の概要 (PLAN)

(1)背景	(4)取組みの概要
<p>●県民の平均寿命(H17)は、男性79.22歳(全国第10位)、女性86.54歳(全国第3位)と年々伸びている。また、本県の平成20年の主な死因は第1位が悪性新生物、第2位が心疾患、第3位が脳血管疾患でこれら生活習慣病による死亡が6割弱を占めている。</p> <p>●メタボリックシンドロームが疑われる者又は予備群は、40~74歳男性の2人に1人、女性の4人に1人と推定(平成20年度県民健康・栄養調査)され、国民健康保険一人あたりの医療費は全国18位(平成20年5月)と全国平均を上回り、総医療費に占める生活習慣病に係る医療費は約4割を占める。</p> <p>●生活の多様化等により、朝食を取らないなどの食生活の乱れが各世代で広がっている。</p>	<p><b>【①子どもの頃からの生涯を通じた適切な生活習慣の定着】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体活動・運動、栄養・食生活、休養・こころの健康づくり、たばこ、アルコール及び歯の健康の6分野における生涯を通じた健康づくりを県民運動として促進する。</li> <li>・家族・地域・職場等社会全体が一人ひとりの健康づくりを支援していく環境の整備を図る。</li> <li>・関係団体等と連携し、ライフステージに応じた食生活・食育の取組を支援する。</li> </ul> <p><b>【②生活習慣病の予防・生活習慣の改善に着目した健康づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メタボリックシンドロームに着目した特定健康診査・特定保健指導の体制を整備するとともに、市町村等と連携し健診受診率の向上や効果的な保健指導に取り組む。</li> </ul> <p><b>【③生活習慣病の重症化・合併症の予防】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・糖尿病治療や療養指導等、医療関係者の質の向上に取り組み患者の自己管理支援体制を整備する。</li> <li>・連携医と専門医による病診連携体制を整備する。</li> </ul>
(2)めざす姿	
<p>●県民一人ひとりが、生涯にわたる健康づくりを進めることにより、「壮年期死亡の減少」「健康寿命の延伸」「生活の質(QOL)の向上」を実現し、健やかで心豊かに生活できる健康長寿社会を目指す。</p>	
(3)解決すべき課題	
<p>●「日頃から健康のための取組みを実施している県民の割合」が多くない(H20:34.9%)など、県民の健康づくりが進んでいない。</p> <p>●メタボリックシンドロームが強く疑われる人が、働き盛りの40歳代から増加する傾向がある。</p> <p>●食事の量や栄養バランス、食生活のリズムが乱れるなど食生活が不適切な人が増加している。</p>	

2 施策の主な構成事業 (DO)

取組みの概要	担当課	平成21年度事業/決算(千円)		平成22年度事業/当初予算(千円)	
子どもの頃からの生涯を通じた適切な生活習慣の定着	健康づくり推進課	健康増進計画推進事業	8,053	健康増進計画推進事業	10,656
		ヘル歯一元気8020支援事業	4,574	ヘル歯一元気8020支援事業	4,800
		健康食生活の推進(健康増進計画)	10,591	健康食生活の推進(健康増進計画)	6,792
		親子健やか生活習慣定着事業	3,191	親子健やか生活習慣定着事業	5,000
		食育総合推進事業	3,187	食育総合推進事業	3,490
		—	—	県民元気アップ食生活強化事業(県産品を使ったヘルシー弁当による生活習慣病予防)	2,508
—	—	県民元気アップ食生活強化事業(地域の縁がわ等を活かした低栄養予防)	2,296		
		市町村健康増進事業	41,063	市町村健康増進事業	56,074
生活習慣病の予防・生活習慣の改善に着目した健康づくり	健康づくり推進課	メタボリックシンドローム予防戦略事業	3,418	メタボリックシンドローム予防戦略事業	1,794
		特定健康診査等実施事業	195,558	特定健康診査等実施事業	305,026
		健康増進事業指導事務費	2,445	健康増進事業指導事務費	2,144
		—	—	がん検診受診促進企業連携事業	8,500
生活習慣病の重症化・合併症の予防	健康づくり推進課	糖尿病予防総合対策事業	734	糖尿病予防総合対策事業	1,823
		—	—	糖尿病医療スタッフ養成事業	10,000

3 施策の評価 (CHECK)

(1)指標の推移						
指標(単位)	策定時	H21	H22	H23	目標値	目標値の説明
1 日頃から健康のための取組みを実施している県民の割合(%)	34.9 (H19) <達成度>	31.3 (H21) 78.3%	35.7 (H22) 89.3%		40.0	健康増進計画の目標値を参考に設定(県民アンケート)
2 小学5年生の朝食欠食率(朝食を毎日食べる児童を除いた割合)(%) ※平成22年に設定した指標	— <増減>	10.9 (H20)	9.6 (H21) -1.3ポイント		0 (10.9ポイント減らす)	健康増進計画に掲げる目標値
3 後期高齢者一人当たりの医療費(全国平均を100とした指数) ※平成22年度に設定した指標	— <目標との差>	—	110 (H20) 10ポイント上回る		全国平均(100)以下	後期高齢者一人当たりの医療費の全国平均を目標値とする

(2)指標の分析	
<p>・県民アンケートの健康維持・増進に関する行動項目の10項目のうち、日頃から5項目以上に取り組んでいる人の割合を評価対象としているが、4ポイント増加した。個々の項目では「睡眠や休養を十分にとるようにしている」人が増加(H21:33.6%→H22:56.8%)するなど、健康の維持・増進への関心の高まりが見られる。</p> <p>・学校と家庭の連携等により、朝食欠食率が低下している(H20:10.9%→H21:9.6%)</p> <p>・後期高齢者の一人当たりの医療費は全国平均を上回っている。</p>	

(3)平成21年度の取組みの主な成果

<p><b>【①子どもの頃からの生涯を通じた適切な生活習慣の定着】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「全国食生活改善大会」の開催、学校等で女性特有のがん予防講座やたばこに関する健康教育(2,500名)を開催するなど、地域・学校・企業等へ情報発信を行うことにより、運動、睡眠、栄養等日頃から健康のための取組みを実践する県民が増加した。</li> <li>・食生活改善推進員が県内各地域で42,406回の親子食育教室等を実施し参加者268千人を超え、また、ヘルシーメニューを提供する健康づくり応援店が35店舗増える(237店舗)など、県民の健康食生活の意識が高まっている。</li> </ul> <p><b>【②生活習慣病の予防・生活習慣の改善に着目した健康づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定保健指導従事者初任者研修(210名)、歯の健康づくり8020推進員の育成(198名)等、人材研修を行うことで、県民にとって質の高い健康指導等を受ける環境づくりが進んだ。また、がん検診と特定健診の同時実施をする市町村が41団体に増加し、県民の検診を受けやすい体制整備が進んでいる。</li> </ul> <p><b>【③生活習慣病の重症化・合併症の予防】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・糖尿病対策に関する医療関係(病院、診療所)実態調査(545機関)では、地域の保健部門と連携している医療機関は12%にとどまっている。その結果を踏まえ、事業展開の骨格をつくり、患者の自己管理支援体制の整備を図った。</li> </ul>
--

(4)平成22年度の取組み方針、取組み状況

<p><b>【①子どもの頃から生涯を通じた適切な生活習慣の定着】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「健康づくり県民会議」を中心に関係団体、市町村との連携を図り、県民総ぐるみによる健康づくりに取り組む。</li> <li>・ライフステージに応じた食育推進を図るため熊本県食育推進計画の見直しを行う。</li> <li>・食を縁とした地域住民との交流拡大を図る「食の縁がわ」づくりを通じた高齢者の低栄養予防やヘルシーな外食事業を推進する。</li> </ul> <p><b>【②生活習慣病の予防・生活習慣の改善に着目した健康づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「特定健診、がん検診受診率」の向上を進めるため地域・職域両面から啓発事業に取り組む。</li> <li>・がん検診受診率(現在約30%)を平成24年度までに50%以上にするため、受診率向上に理解がある企業等と連携し、職域でのがん予防対策を図る。</li> </ul> <p><b>【③生活習慣病の重症化・合併症の予防】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・糖尿病専門医のスキルアップ等人材育成を図る医療スタッフを熊本病院に1名配置し、糖尿病専門医等の研修会や症例検討会を開催する等、糖尿病の発症、重症化、合併症予防の体制整備を図る。</li> <li>・各圏域毎に郡市医師会、保健所を中心に地域連携ネットワーク研究会を設置し、医療、保健の連携の在り方やそのツールとなる健康手帳の活用等を検討する。</li> </ul>
--

(5)施策を推進する上での課題

<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康食生活、食育の推進にあたり、ライフステージに応じた対策が不十分。</li> <li>・特定健診、がん検診の重要性を住民に徹底するための受診率向上に向けた効果的な方策の検討。</li> <li>・糖尿病の重症化、合併症予防のため、医療関係者の数の確保、質の向上と併せて、地域において関係者が連携して患者の自己管理を支援する体制が必要。</li> </ul>
---

4 今後の方向性 (ACTION)

次年度に向けた施策展開の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな熊本県食育推進計画に基づき、ライフステージに応じた食育推進のための施策を推進する。</li> <li>・市町村での特定健診、がん検診の同時実施を進め、がん予防に理解のある企業と協働でがん予防対策や生活習慣病予防の取組みを県内に広げる。</li> <li>・糖尿病患者を減少させるため、地域医師会、保健所、市町村が一体となり圏域ごとに設置する「糖尿病地域連携ネットワーク研究会」を活用し、地域の実情に応じた医療と保健の連携体制を整備する。</li> <li>・歯科保健に関する条例を踏まえ、地域保健と学校保健の連携体制を整備し、むし歯予防に効果的なフッ化物洗口を推進する。</li> </ul>	